



MITSUI-SOKO GROUP

GROUP PROFILE
2025-2026

物流を止めないこと。それは、社会の流れを止めないこと。

円滑な社会の流れは、人々の、世の中の進化をつなげてゆく。

私たちは、原材料の調達から先端医療分野の物流支援まで行える
「フルスペック」の物流機能が備わった、ひとつのチームです。

これから、ますます多様化していく社会において

お客様それぞれのニーズにお応えしていくため、

各社の共創により、私たち自身も進化し続けていきます。

私たち三井倉庫グループに、どうぞご期待ください。

社会を止めない。進化をつなぐ。

いつもも、いざも、これからも。
共創する物流ソリューションパートナー

三井倉庫グループ

Logistics with Business

ビジネスを支える物流

いかに物流をシームレスにつなぎながら、効率を上げられるか。

それは、事業の効率化に直結する重要な要素です。

三井倉庫グループは、様々な物流事業を通して

培われてきた独自の物流ノウハウを活かし、

皆さまのビジネスシーンをサポートしています。



Supply-chain & Solution

サプライチェーン・ソリューション



お客様の生産工程を俯瞰し、工場内の生産性向上に貢献

三井倉庫グループの特色のひとつである「構内物流サービス」。お客様の製品の生産現場に密着し、生産計画や販売計画に物流プランニングを同期させながら、物流費の抑制ならびにリードタイム（商品・サービスの発注から納品までにかかる時間）の改善、在庫適正化の実現までの「トータル・サプライチェーン」をサポートします。また、メーカーにおける物流で培った確かな荷役業務で、大きささまざまな製品、部品、原材料をお客様のご要望に沿った環境の倉庫で安全にお預かり。ご要望に応じて、倉庫の付帯作業として製品に加工を施す等、入庫から製造ラインへの供給、製品の出庫に至るまで、構内の物流効率化を担い、工場の生産性向上に貢献します。

構内物流を基軸とした製造マネジメント支援例



*ミルクラン:1台の車両で複数の調達先を巡回し、商品や部品などを集荷する調達輸送形式。

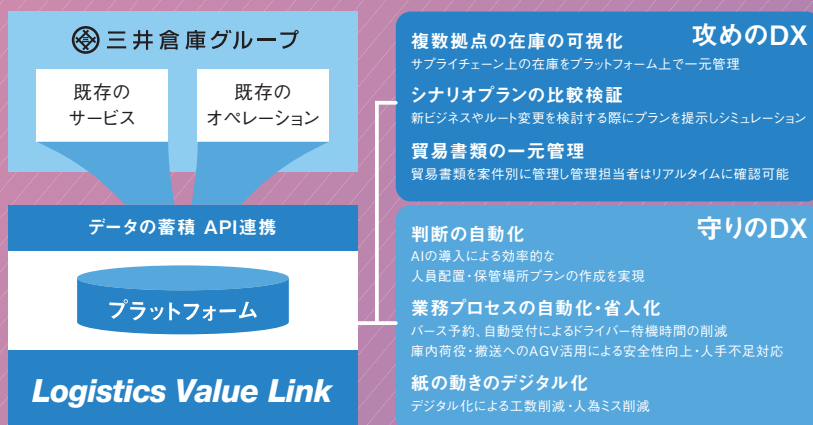
*VMI倉庫:VMI(Vendor Managed Inventory)とはベンダー主導型で在庫管理する仕組みで、調達・購買側が生産状況や販売状況等により適切な量を入庫する倉庫。

*NVOCC:Non-Vessel Operating Common Carrierの略称で、船舶や航空機などの実輸送手段を持たずに、輸送会社に委託することで自ら元請運送人となる事業者。



物流事業のデジタル化を進め、お客様のビジネスをより効率的に

今後も拡大傾向にあるECビジネス。その裏側を支える物流施設において、三井倉庫グループはデジタルの視点で周辺業務の「効率化」を推進していきます。まず、リアル物流とEC販売物流の双方を考慮した最新鋭の物流施設にスマートロジスティクス(AIやIoT*、AGV*などを活用した物流管理)を導入し、今後各グループ物流拠点に水平展開していきます。さらに、ビジネスの複雑性を軽減するITシステムを構築する施設において、デジタルプラットフォームのLogistics Value Linkにより「攻め」と「守り」の両方向から“物流DX”を展開(右図参照)。お客様のビジネスにおける物流領域の効率化・最適化を目指します。



グループ各社の連携により既存サービスのデータ情報を共有し、収集した様々な情報を独自のプラットフォーム上に蓄積。これが「Logistics Value Link」です。

*IoT (Internet of Things): “モノのインターネット”と呼ばれ、貨物等が、ネットワークを通じてサーバーやクラウドと接続して、相互に情報交換すること。

*AGV (Automated Guided Vehicle): 人間が運転操作を行わなくとも自動で走行できる搬送車のこと。

Logistics of Life

生活を支える物流

より早く、より正確に、より安全に。

物流を通してお客様の

快適な生活を支えるための、

三井倉庫グループの

サービスをご紹介します。

Food Ingredients

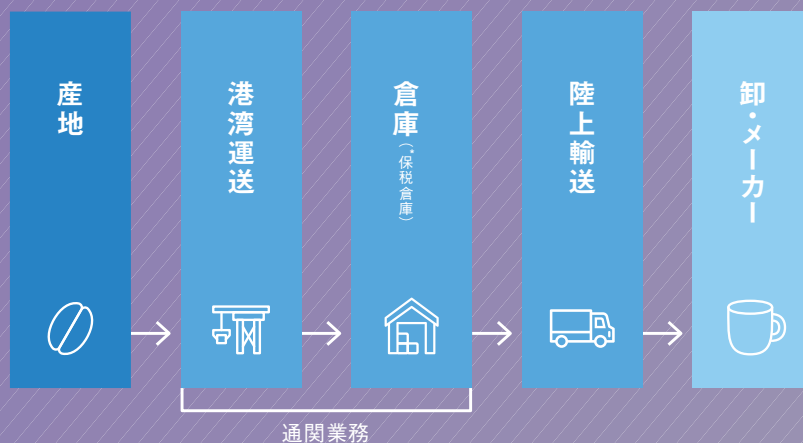
食品原材料物流



経験と実績に裏付けされたワンストップの原材料物流

私たちの食生活に欠かせない食品原材料（調製食料品や農産品等）。これらの取り扱いに関しては、当社グループのなかでも最も長い歴史があります。コーヒー豆の日本国内への輸入を例に挙げると、国内港湾地区の保税倉庫*にて適切な温度帯での保管管理、保管中のサンプリング対応等、きめ細やかなサービスを提供しています。さらに当社グループは、原産地から「海上輸送」→「通関業務」→「倉庫保管」→「流通加工」→「国内での陸上輸送」→「納品」まで、ワンストップで対応できるサービス機能を有しています。これは、長い歴史の中で培われた経験と実績による、三井倉庫グループならではの強みです。

産地と国内メーカーをつなぐ「原材料物流・ワンストップサービス」



*保税倉庫：保税（一時的に租税の徴収を留保）の状態で輸入された外国貨物を蔵置できる場所のこと。2年間蔵置が可能。

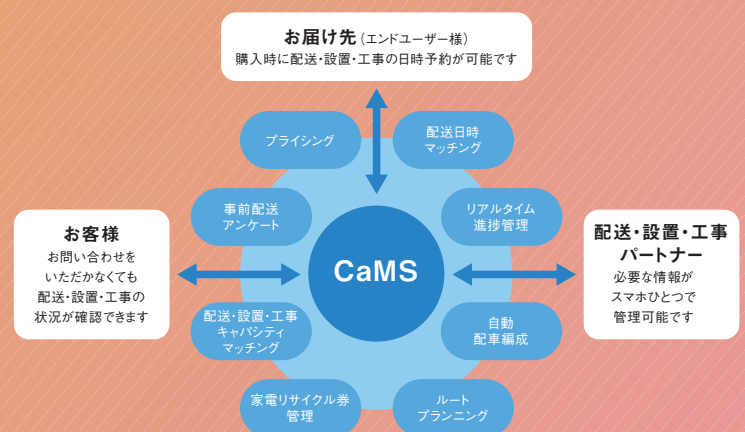


PUDO
Pick Up & Drop Off station

家電物流のノウハウを活かした「生活密着型」物流サービス

生活に密着した宅配便ロッカー「PUDOステーション」の設置・メンテナンスをはじめとした、家電・家具等の国内配送業務を運営しています。当社グループは、あらゆる事業者様のご要望を一つの窓口で対応。国内150拠点以上のパートナーとともに構築したサービス・ネットワークのもと、物流に技術面を加えたユニークなビジネスモデル「Technical Logistics Platform(テクニカル ロジスティクス プラットフォーム)*」を通じ、皆さまの快適な生活を支えています。また、キャパシティマッチングシステム(CaMS:右図参照)の活用により、配送・設置・工事のキャパシティや作業状況をリアルタイムで可視化。これにより、複数の施主様とパートナーのマッチングを可能にし、配送・施工の最適化を実現しています。

CaMS:キャパシティ マッチング システム



※CaMSは三井倉庫ロジスティクスが開発した物流支援の仕組みです (特許第6101847号)

*Technical Logistics Platformの紹介動画はこちらから→
<https://youtu.be/92LqSWwCVoU>



Logistics for Society

社会を支える物流



世の中を、どう変えていけるだろう。
社会を、どれだけ良くしていけるだろう。
三井倉庫グループの、
社会課題の解決に向けた
物流サービスをご紹介します。

Supply-chain Sustainability

持続可能な物流



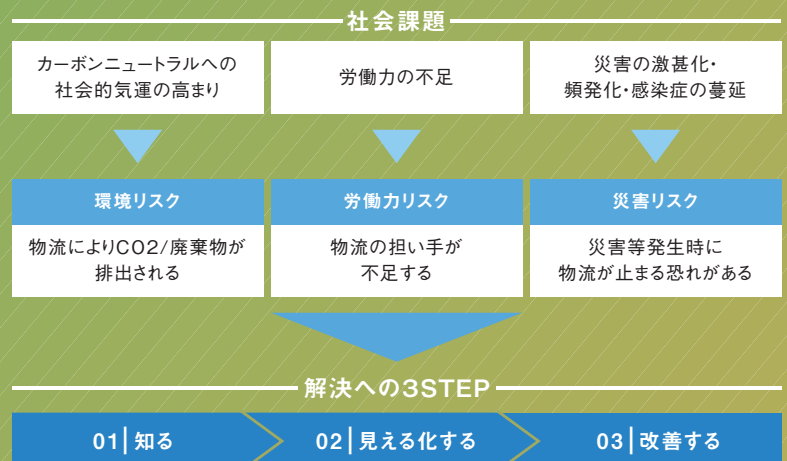
「SustainaLink」を通じた社会課題への挑戦

三井倉庫グループは、物流の持続可能性を支援するサービス「SustainaLink(サステナリンク)*」を提供しています。物流における社会課題である「環境」「労働力」「災害」の3つの観点からリスクを洗い出し、それらを「知る」→「見える化する」→「改善する」という3ステップの対応策を設け、お客様の持続可能なサプライチェーンの実現をサポートしています。例えば、環境リスクにおいては「GLECフレームワーク*」に基づき、海上・航空および鉄道やトレーラー等、複数の輸送形態を用いる国際物流のCO2排出量を算定(見える化)し、物流合理化による排出量削減を提案することで、お客様の脱炭素経営を支援しています。

*SustainaLinkは、国際・国内物流のCO2排出量算定方法について第三者評価機関による妥当性評価を取得しています。
*GLECフレームワーク:CO2排出量の算定方法が記載されている国際的なガイドライン「GHGプロトコル」をもとに作成された、物流のCO2排出量算定に特化した国際的なガイドライン。

SustainaLink
Supply-chain Sustainability

SustainaLinkサービス概要



*SustainaLinkの紹介動画はこちらから→
<https://youtu.be/2B5E8D0cFU>



Advanced Medical Logistics

先端医療物流



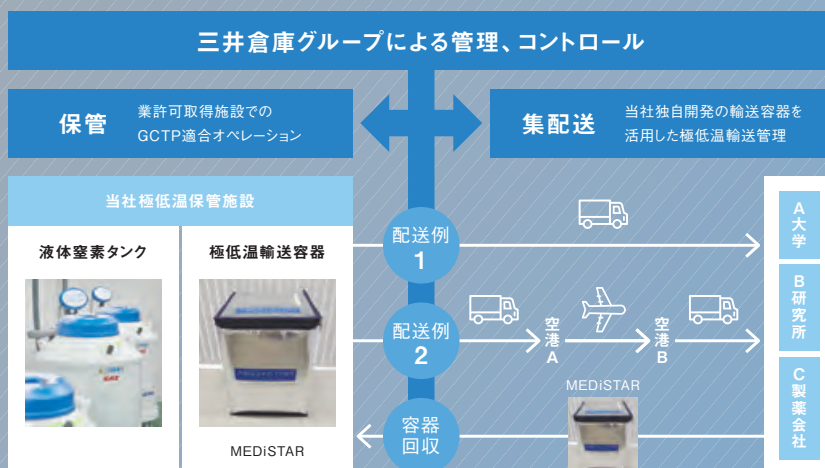
高機能施設を活用した高度な先端医療物流を提供

三井倉庫グループでは、GMP*に適合した高機能な自社施設「P&Mセンター」で医薬品製造業や販売業などの業許可を取得し、医薬品や医療機器の製販物流、高度管理を要する治験薬やバイオ医薬品の取り扱い他、お客様のさまざまな要望にワンストップで対応しています。中でも、再生医療をはじめとする先端医療領域においては、極低温【-150℃】まで対応可能な物流サービスを構築しており、GCTP*に適合した施設にて“患者検体の国内輸送”及び“海外製造製品の一時保管・輸送”を包括受託するなど、精度が求められる物流を高品質に提供しています。

*GMP:医薬品の製造管理及び品質管理の基準に関する省令
*GCTP:再生医療等製品の製造管理及び品質管理の基準に関する省令



先端医療領域における極低温物流サービスモデル



*Medical Logisticsの紹介動画はこちらから→
<https://youtu.be/aZoCy9yvpfM>



Organizational Structure

三井倉庫グループの組織体制

三井倉庫ホールディングス株式会社

持株会社・不動産事業

事業会社の経営サポートと全体最適化
所有不動産の賃貸・運営・管理



三井倉庫株式会社

倉庫（国内・海外） 港湾運送

大型物流センター運営ノウハウを起点に国内外で戦略的ロジスティクスを構築し、各国の現地事情に即した最適なソリューションを提供



三井倉庫エクスプレス株式会社

航空貨物フォワーディング

貨物特性に応じた専門的なノウハウを有する
高品質なグローバルエクスプレスフォワーダー ※トヨタ自動車(株)との合併会社



三井倉庫ロジスティクス株式会社

3PL・LLP（流通・販売物流）

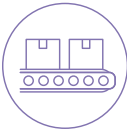
製・配・販をつなぎお客様の経営課題を解決する
ロジスティクスパートナー



三井倉庫サプライチェーンソリューション株式会社

3PL・LLP（調達・生産物流）

メーカー視点に基づきお客様を競争優位に導く
サプライチェーンソリューションを提供 ※ソニー(株)との合併会社



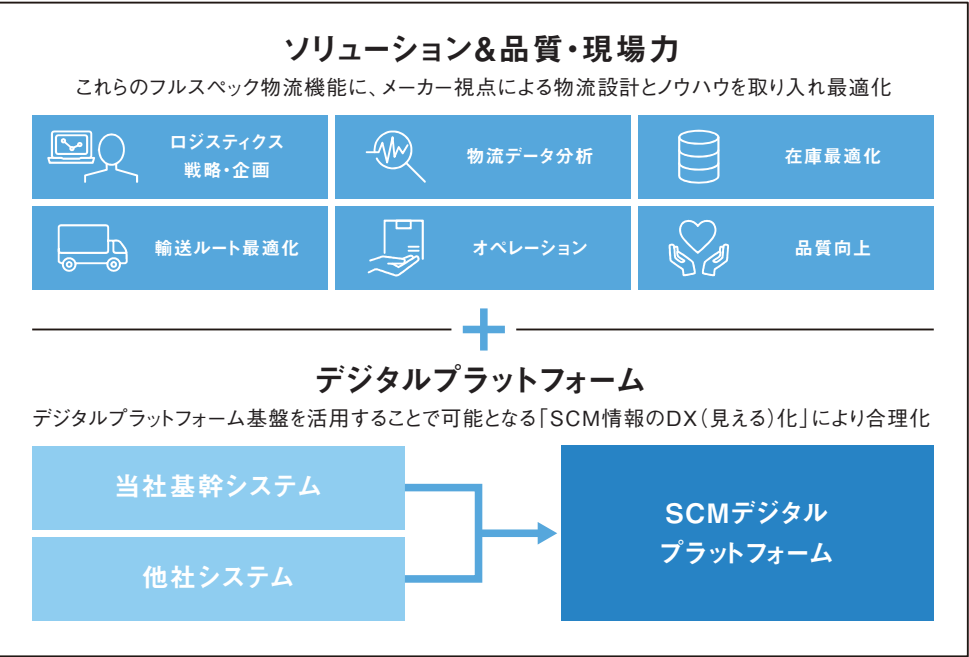
三井倉庫トランスポート株式会社

陸上貨物運送

輸送機能を軸としたトランスポートネットワークを統括・管理
※丸協運輸グループの統括・管理会社



統合ソリューションサービス



MITSUI-SOKO GROUP

—多様なDNAを持つ「三井倉庫グループ」—

日本の近代産業が勃興するなか、1909年に三井倉庫グループの前身である「東神倉庫株式会社」が創立されました。その後、全国に拠点を広げていき、1942年に「三井倉庫株式会社」に社名を改称。1950年には、東京証券取引所に株式を上場し、事業領域を広げていきました。そして、2012年には、3PL業務を営む三井倉庫ロジスティクス、航空貨物輸送業務を営む三井倉庫エクスプレスがグループ

に加わり、サービス機能を強化。さらに、2015年には、工場物流や販売物流を軸とする三井倉庫サプライチェーンソリューション、運送ネットワークを統括・管理する三井倉庫トランスポートがそれぞれ事業会社としてグループに加わり、フルスペックの物流機能を拡充しつつあります。三井倉庫グループは、世界中の重要拠点に物流ネットワークを展開し、さらなる成長と価値提供を目指していきます。

Our History

三井倉庫グループの歴史

創業期 1909～1959 拡大期 1960～1990 発展期 1991～2015 社会共創・持続的成長へ 2016～

三井倉庫ホールディングス株式会社

三井倉庫ホールディングス
↑
2014 持株会社制移行 三井倉庫ホールディングス(株)設立
2022 グループ理念を制定

三井倉庫株式会社

1909 三井銀行から倉庫部が分離、東神倉庫(株)設立
倉庫業開始
東神倉庫 三井倉庫
1942 三井倉庫(株)に社名変更
1950 東京証券取引所に株式上場



1968 海上コンテナの取り扱いと国内
コンテナ・ターミナル運営開始



1977 国際運送業務を本格展開

1989 不動産賃貸業務を本格展開



三井倉庫箱崎ビル

1986 ビッグバッグ業務(トランクルーム保管、
引越等の非商品対象業務)開始

2008 3PL事業を本格展開

2006 ヘルスケア事業・BPO事業を本格展開



ヘルスケア事業



BPO事業

2009 創立100周年

三井倉庫エクスプレス株式会社

トヨタ自動車(株)との合弁会社

1966 東京エアサービス(株)設立

1971 トヨタ自動車販売(株)資本参加



東京エアサービス設立

交通公社航空貨物部

1969 (株)交通公社航空貨物部設立



2004 TASエクスプレス(株)に改称

三井倉庫エクスプレス

2012 (株)三井倉庫エアカーゴとTASエクスプレス(株)が合併し、
三井倉庫エクスプレス(株)に改称



2011 (株)三井倉庫 エアカーゴに改称し、三井倉庫グループ入り

三井倉庫ロジスティクス株式会社

三洋電機商品センター

1971 三栄興産(株)を商号変更し、
(株)三洋電機商品センター設立



2002 三洋ロジテックサービス(株)(現「MSロジテックサービス(株)」)設立

1999 三洋電機ロジスティクス(株)
に改称

2006 北海道三洋ロジスティクス(株)
(現「北海道三井倉庫ロジスティクス(株)」)設立

2015 (株)コネクストを新設分割設立

三井倉庫ロジスティクス

2012 三洋電機ロジスティクス(株)が三井倉庫ロジスティクス(株)に改称し、
三井倉庫グループ入り



三井倉庫サプライチェーンソリューション株式会社

ソニー(株)との合弁会社

ソニー倉庫

1962 ソニー倉庫(株)設立



1988 ソニ ーロジスティクス(株)に改称

2006 ロジスティックスオペレーション(株)設立

2003 ソニートレーディングインターナショナル(株)と合併し、
ソニーサプライチェーンソリューション(株)に改称



三井倉庫サプライチェーンソリューション

2015 ソニーサプライチェーンソリューション(株)が
三井倉庫サプライチェーンソリューション(株)に改称し、
三井倉庫グループ入り



三井倉庫トランスポート株式会社

丸協運輸グループの統括・管理会社
丸協運輸(株)は当社グループ入り後も継続して事業を営んでおります。

丸協運輸

1967 丸協運輸(株)創業



三井倉庫トランスポート

2015 三井倉庫トランスポート(株)を設立、
丸協運輸グループが三井倉庫グループ入り



三井倉庫グループ

Group Philosophy

グループ理念



グループの理念を構成する3つの要素

グループ理念は経営の最上位概念であり、
「PURPOSE(存在意義)」「VISION(中長期的に目指す姿)」「4 VALUES(価値観・行動指針)」
から構成されています。



VISION 中長期的に目指す姿

いつもも、いざも、これからも。
共創する物流ソリューションパートナー

PURPOSE 存在意義

社会を止めない。進化をつなぐ。

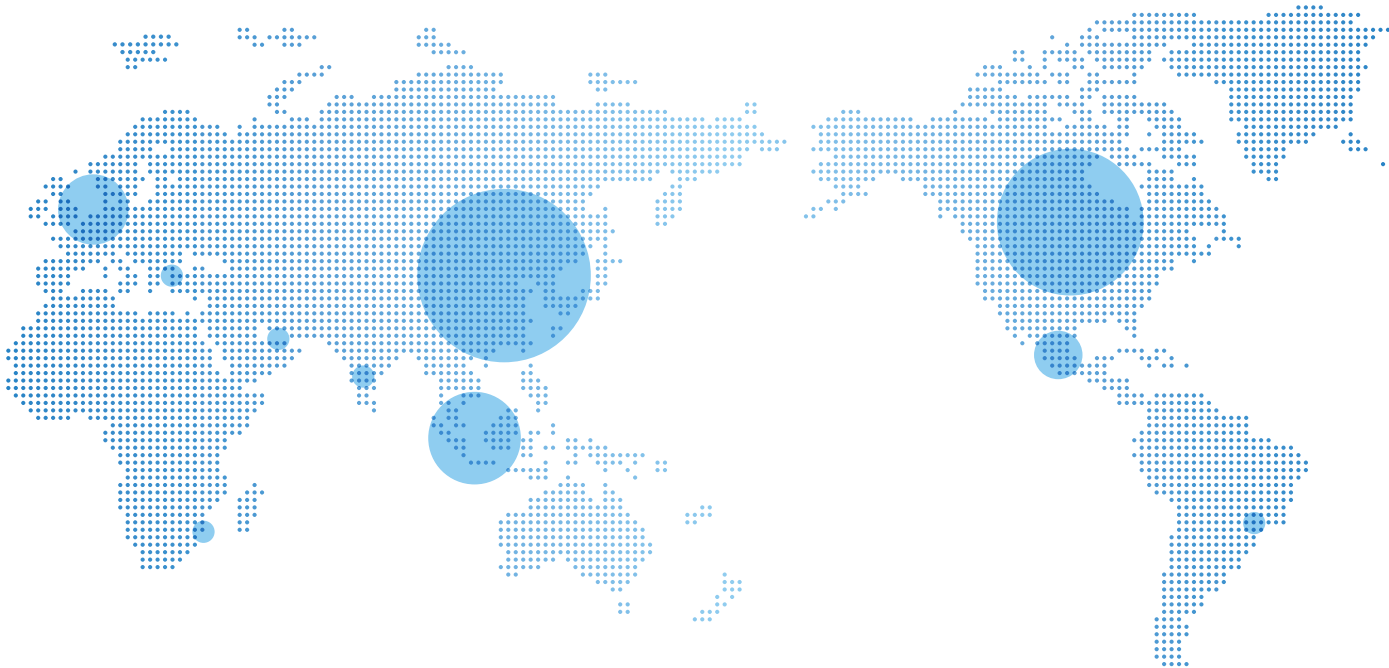
4 VALUES 価値観・行動指針

PRIDE.....社会を止めないことの責任と誇り
CHALLENGE.....顧客視点と社会視点の、提案力と実行力で挑む
GEMBA.....現場は原点であり、進化の起点であり続ける
RESPECT.....多様な個を受け入れ、新たな価値を生み出す

Corporate Overview

グループ企業概要

(2025年6月30日現在)



OUR WORLDWIDE NETWORK

アフリカ 南アフリカ	ヨーロッパ イギリス ベルギー チェコ ハンガリー オランダ スロバキア	中東 トルコ アラブ首長国連邦	南アジア インド	北東アジア 日本 中国・香港・台湾 韓国	東南アジア ベトナム タイ シンガポール マレーシア インドネシア	北米・南米 アメリカ カナダ メキシコ ブラジル
---------------	--	-----------------------	-------------	-------------------------------	--	--------------------------------------

グループ持株会社概要と本社所在地

商号	三井倉庫ホールディングス株式会社
設立	明治42年(1909年)10月11日
資本金	11,282,840,474円
従業員	1,029名(含む出向者751名) 8,017名／連結
グループの事業内容	物流事業・不動産事業
本社所在地	〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

グループ事業会社本社所在地

三井倉庫株式会社 本社所在地:〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町19-21
三井倉庫エクスプレス株式会社 本社所在地:〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町19-21
三井倉庫ロジスティクス株式会社 本社所在地:〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町19-21
三井倉庫サプライチェーンソリューション株式会社 本社所在地:〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町19-21
三井倉庫トランスポート株式会社 本社所在地:〒550-0001 大阪府大阪市西区土佐堀2-4-9

企業情報についての詳細は
三井倉庫グループ事業会社一覧をご覧ください
<https://www.mitsui-soko.com/company/group>

三井倉庫グループYoutube公式チャンネルは
こちらからご覧ください
<https://www.youtube.com/@mitsuisokohd>

三井倉庫グループ経営体制一覧 (持株会社・事業会社役員)

三井倉庫ホールディングス株式会社

・代表取締役社長社長執行役員	古賀 博文	・社外取締役	月岡 隆
・代表取締役専務執行役員	中山 信夫	・社外取締役	甲斐 順子
・取締役常務執行役員	郷原 健	・常任常勤監査役	木納 裕
・取締役常務執行役員	西村 健	・常勤監査役	三菅 文生
・社外取締役	中野 泰三郎	・社外監査役	三宅 英貴
・社外取締役	平井 孝志	・社外監査役	川村 健
・社外取締役	菊地 麻緒子	・社外監査役	仲田 正史

三井倉庫株式会社

・代表取締役会長	久保 高伸	・取締役	中山 信夫
・代表取締役社長執行役員	鳥井 宏	・取締役	西村 健
・取締役常務執行役員	若野 英樹	・監査役	木納 裕
・取締役上級執行役員	金井 重樹		
・取締役上級執行役員	中西 紀之		
・取締役上級執行役員	藤巻 一義		

三井倉庫エクスプレス株式会社

・代表取締役会長	古賀 博文
・代表取締役社長執行役員	一柳 尚成
・取締役常務執行役員	高橋 秀郎
・取締役上級執行役員	徳光 香彦
・取締役	久保 高伸
・監査役	郷原 健
・監査役	饗庭 龍次

三井倉庫ロジスティクス株式会社

・代表取締役社長執行役員	石川 輝雄
・取締役上級執行役員	松川 健一
・取締役上級執行役員	宮島 宏之
・取締役	田中 英介
・取締役	西村 健
・監査役	三菅 文生

三井倉庫サプライチェーンソリューション株式会社

・代表取締役社長執行役員	関取 高行
・取締役上級執行役員	稲村 明雄
・取締役	桐山 智明
・取締役	大嶋 祐一
・取締役	須藤 尚之
・監査役	中山 信夫

三井倉庫トランスポート株式会社

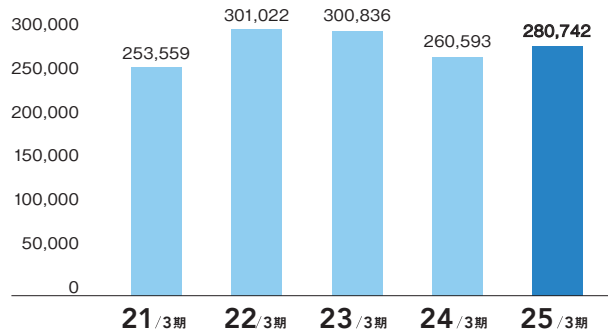
・代表取締役社長	重村 篤志
・常務取締役	渡部 智
・取締役	渡部 尚
・取締役	桐山 智明
・取締役	田中 英介
・監査役	中山 信夫

Financial Review

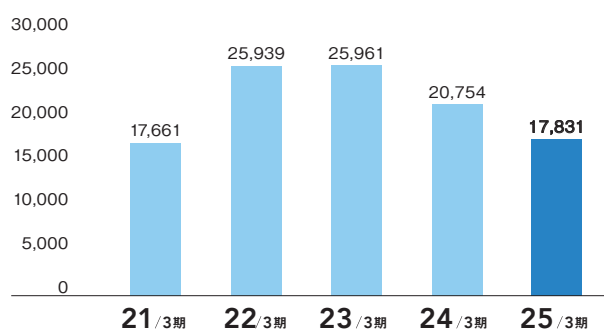
財務トピックス[連結]

(2025年3月31日現在)

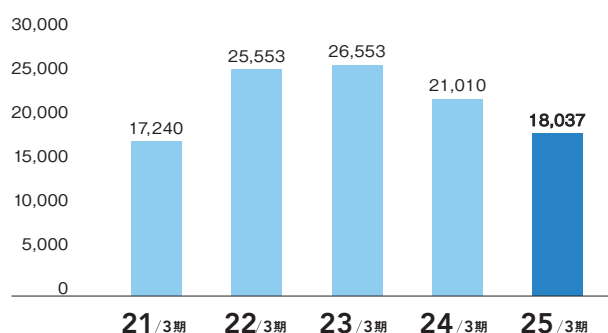
営業収益 (百万円)



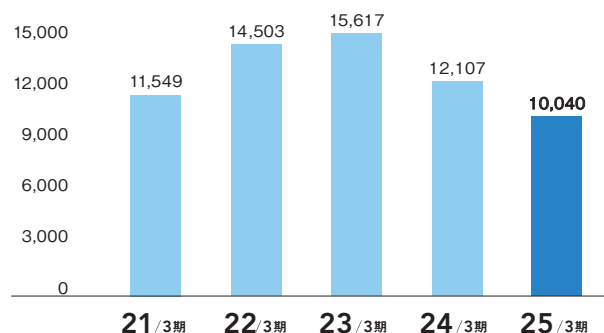
営業利益 (百万円)



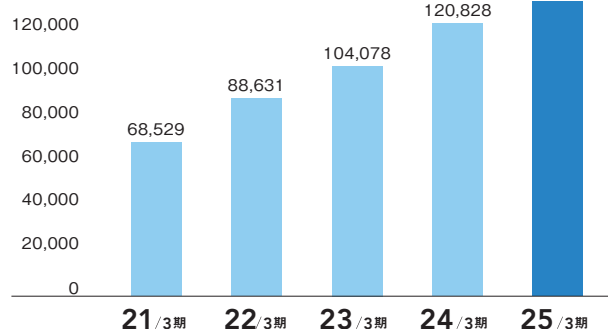
経常利益 (百万円)



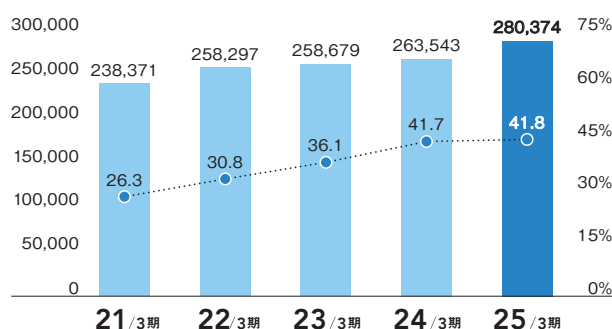
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



純資産 (百万円)



総資産 (百万円)・自己資本比率



(注1) 事業別業績における営業収益はセグメント間の内部収益または振替高を含み、営業利益は管理部門に係る費用の調整前の金額としています。

(注2) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

詳しい財務情報は有価証券報告書他
をご参照ください
<https://msh.mitsui-soko.com/ir/library/03>



非財務情報等は統合報告書 | バリュレポ
をご参照ください
<https://msh.mitsui-soko.com/ir/library/05>





本誌表紙の印刷用紙は、人と野生動物を貧困と環境問題から守るフェアトレード認証紙の「バナナペーパー」を使用しています。この「バナナペーパー」はバナナ繊維20%以上を使用し、CO2においては、用紙製造工程で排出するよりも多くの量を吸収するクライメートポジティブ紙です。また、本誌の印刷用紙には、適切に管理されたFSC®認証林およびその他の管理された供給源からの原材料を用い、印刷用インキには石油系溶剤の含有率1%未満の植物油インキを採用しています。

本誌に関してのお問い合わせ：三井倉庫ホールディングス株式会社 経営企画部広報室 kouhou@mitsui-soko.co.jp

2025.10A Printed in Japan



三井倉庫グループ